
 いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

～新病院建設に係る起工式を執り行いました～



新病院建設事業につきましては、平成26年9月に「大成建設・常磐開発特定建設工事共同企業体」と建築実施設計及び施工の一括発注に係る事業契約を締結し、これまで、建築実施設計の検討と並行し、第1期解体・造成工事として、既存施設の解体工事や新病院建設エリアの造成工事を進めてきました。

昨年9月には、建築実施設計図を作成し、10月には、第1期解体工事を完了したほか、造成工事につきましても、一定の進捗が図られたことから、去る2月18日に、起工式を執り行いました。

式典では、来賓の皆さまをはじめ、市（病院）関係者、施工関係者をあわせ、約100名の出席のもと、市長や病院事業管理者らが鍬入を行いました。

今後におきましては、工事の安全確保に努めながら、平成30年12月の新病院の開院、さらには、平成32年度の全体完了を目指し、事業を着実に推進していきます。



現在の工事の状況（H28.2現在）



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246 (26) 2250 (直通) FAX 0246 (26) 2119

URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>

E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp



～新病院実施設計の概要～

昨年11月に公表しました新病院実施設計に基づき、新病院の概要について紹介します。

新病院の整備にあたりましては、地域の中核病院にふさわしい施設づくりを目指し、①機能的で使いやすい病院、②災害に強い病院、③患者さん中心の病院、④働く人にとって魅力ある病院、の4つをコンセプトに掲げ設計を行いました。

建物は、鉄骨造り、一部鉄筋コンクリート造りの地上13階建てで、1～2階が、外来・検査部門、3階は管理部門、4階は手術等の高度医療部門、5階～12階には病棟部門（病床数700床）をそれぞれ配置することとしています。



外観イメージ（中核病院としての「先進性」と、地域の人や自然との「調和」を表現）

新病院の特徴

■ 機能性や利便性の向上

エレベーターや階段は、院内各所にアクセスしやすいように、施設のほぼ中央に集約するセンターコア方式を採用するほか、待ち時間の短縮などを図るため、外来にはブロック受付を随所に配置します。

また1階にはカフェやコンビニエンスストア、理・美容室を設置するほか、2階には、レストランを設置し、病院利用者等の利便性の向上を図ることとしています。



外来部門のブロック受付



カフェ・ラウンジ

■ 療養環境への配慮

病室には、医療ガス設備などの医療設備を集約配置するほか、内装には、木調の自然な色合いを採用するなど、落ち着いたの療養空間とします。



4床室

■ がん診療連携拠点病院としての機能充実

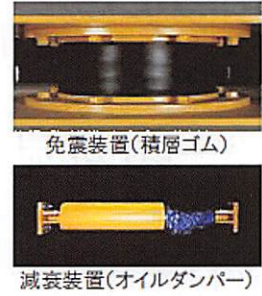
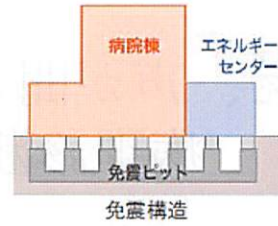
地域がん診療連携拠点病院としての、更なる機能充実を図るため、機器の更新時にも継続して治療が行えるよう「第二リニアック（放射線）治療室」を先行して整備するほか、がん患者やその家族に対する相談支援体制の充実のための「がんサロン」や、生活の質の向上を図る「緩和ケア病棟」を整備します。



がんサロン

■災害拠点病院としての機能充実

地震時の建物への影響を軽減し、安全・安心の医療継続を図るため、免震構造を採用するほか、屋内外に災害時活動やトリアージを想定した施設を整備するなど、災害拠点病院としての機能充実を図ることとしています。



工程表

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
新病院	実施設計		工事	準備	新病院開院		事業完了
造成		1期造成				2期造成	
既存病院解体	1期解体					2期解体	
工事ステップ	← 新病院建設期間 →				← 既存病院解体・造成期間 (新病院開院後) →		

事業概要

敷地面積：73,036.14㎡
 建築面積：13,112.04㎡（うち、新病院棟 11,029.70㎡）
 延べ面積：64,595.91㎡（うち、新病院棟 62,756.82㎡）
 階数：地上13階（屋上ヘリポート）、地下階なし
 構造：鉄骨造（一部CFT柱）一部鉄筋コンクリート造
 総病床数：700床

新病院づくり応援基金について

当院では、新病院づくりに向けた市民の皆様の機運の醸成や新病院建設に係る財源確保を図る観点から、平成23年3月に「いわき市新病院づくり応援基金」を創設いたしました。

新病院づくりを応援していただける市民の皆様や団体等からの御寄附を受け付けております。御厚志は、「新病院づくり応援基金」に積み立て、今後の新病院建設工事や医療機器の整備に有効に活用させていただきます。

皆様の温かい御支援をお願いいたします。

詳しくは下記の市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000001680/>

※平成28年2月末現在で、121件、3,890万円の御寄附をいただいております。

『共立病院病理診断センター』の新設

—顔が見え、声が聞こえる
病理診断を目指して—



いわき市立総合磐城共立病院

病理科 浅野重之

1. 病理科の歴史

当院は1950年（S. 25年）に開設され、病理業務は、1961年（S. 36年）より、東北大病理、福島医大病理および福島労災病院の箱崎先生方が出張してその任務に当たっていました。その後、1993年（H. 5年）からは私が着任し、福島医大病理、獨協医大病理、筑波大病理および箱崎先生など非常勤の諸先生方から応援をいただき、おかげ様で本年2016年（H. 28年）には病理科開設“55年目”をむかえようとしております。

2. 病理診断センター新設の意義

当院は2014年（H. 26年）8月にがん診療連携拠点病院に指定され、これを機会に、地域における中核医療機関として当院の役割や機能を果たすとともに、新病院開院（2018年12月）に向けてさらに業務を推進していこうと思っております。また、いわき医療圏における完結型医療をめざすなかで、「病理科」としても地域医療機関の先生方との連携協力体制の整備強化に貢献することが何よりも大事であると思ひ、病理診断センターを新設する運びとなりました。

具体的には、当院と地域医療連携の関係にある医院より病理・細胞診の病理診断の依頼を受け、即座に報告する業務を行います。このことが、いわき医療圏における医療に貢献できるものと考えております。

3. 病理診断センターの整備概要

1) 病理専門医・細胞診専門医；常勤1名

非常勤病理医；福島医大病理、獨協医大病理、筑波大病理

2) 病理・細胞診スタッフの配置

3) 免疫染色や術中迅速診断も可能な設備の充実

4) 開設日；平成28年 4月 4日

4. 病理診断センターのモットー

当センターは、検査所とは異なり、地域医療連携施設として顔が見え、声が聞こえる病理診断を目指しています。

概要図

病理診断センターと地域医療連携



共立病院病理診断センター



①病理依頼書と病理標本；
『送付あるいは持参』

②病理標本受付・作製
* 検体受理后、受付は平日の就業時間内となります。



③病理診断；
* 受付日を含み 3日目の
夕方から診断開始。



(例)
金曜日受付；月曜日受付
⇒水曜日診断開始。
月曜日受付；火曜日受付
⇒木曜日診断開始。

④診断書
* 郵送の場合 = 受付後4~5日
* 急ぎの場合 = FAX-後日郵送。

地域連携施設
(医院・病院)

⑤請求書 (毎月1回)

共立病院医事課

骨粗鬆症外来を開設して

いわき市立総合磐城共立病院

整形外科 菅野 敦子



— 骨粗鬆症とはどんな病気か —

「骨粗鬆症」というと、皆様はどのような症状を思い浮かべるでしょうか？アメリカ国立衛生研究所（NIH）による骨粗鬆症の定義は、「骨強度が低下し、骨折のリスクが増大する疾患」です。

骨折の中でも、大腿骨近位部骨折が高齢者に与える影響は大きく、単に歩行能力や日常生活動作の低下にとどまらず、生命予後にも影響を与えることが報告されています。厚生労働省調査では、介護保険を受けている方の1割が、骨折が原因となっております（図1）。日本整形外科学会調査では、大腿骨近位部骨折の治療後1年後の死亡率が10.1%といわれています。別の報告では、大腿骨近位部骨折後の生存率の低下が報告されております（図2）。我々も、骨折の治療に従事している中で、患者さんの全身状態の悪化や死に遭遇することも少なくありません。

「生命にかかわる疾患を扱っていない」と言われることの多い整形外科ですが、上述の如く、骨粗鬆症由来の骨折は、生命予後にも直結しており、決して「骨だけの問題」ではないのです。

一方で、何らかの骨折を起こさない限り、痛みもないため、本人が自覚することのない疾患ともいえます。

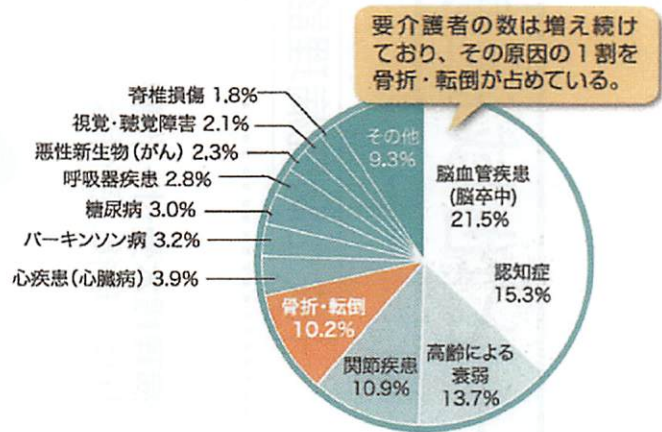


図1：要介護となった人の原因疾患。厚生労働省、平成22年国民生活基礎調査より。

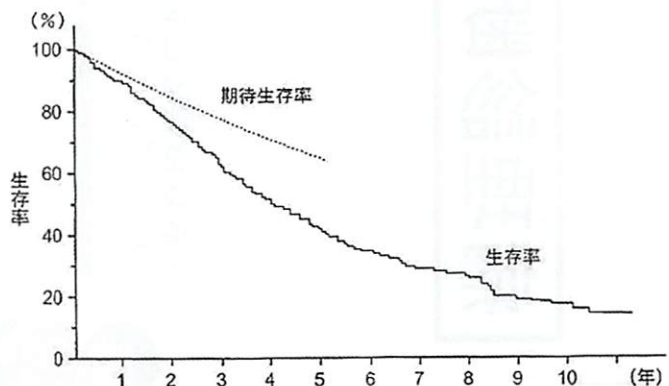


図2：大腿骨近位部骨折患者の生存率。期待生存率よりも低い。(Clin.Cal. 2015 村木より抜粋)

— どんな人がかかりやすい？ —

女性では、閉経にともないエストロゲンが減少するとともに、骨量が減少し、骨粗鬆症へと進行していきます（図3）。それゆえ、女性に骨粗鬆症が多くなるのですが、70代以上の女性では、約半数が骨粗鬆症を有していると報告されています（図4）。これを基に計算すると、実に全国で1,280万人が骨粗鬆症と考えられるとの報告もあります。

更に、糖尿病と腎不全は、骨折リスクを増大させることが2015年骨粗鬆症ガイドラインにも明記されており、明らかに骨粗鬆症の治療を要すると考えられます。慢性閉塞性肺疾患など、他の内科疾患との骨粗鬆症との関連も報告されており、内科疾患を抜きにして骨粗鬆症を考えることはできないと言っても過言ではありません。

— 骨粗鬆症外来の開設 —

当院での2014年1年間で、大腿骨近位部骨折の全患者数は173例であり、大半が高齢者です。このような患者さんを少しでも減らし、骨折してしまった方においては、新たな骨折を起こさないようにできないものかと考え、外来を開設しました。

胸椎・腰椎のレントゲン、DEXA法を用いた骨密度測定、骨形成・吸収の状態を見る骨代謝マーカーを測定しております。現在の基準では、DEXA法で有意な骨密度低下がなくても、知らない間に背骨がつぶれる「脆弱性骨折」がある場合は、骨粗鬆症と診断できるため、レントゲンで確認を行っております。マーカーの数値は、治療の反応性を見る目的で使用しております。

どのような患者さんを紹介すれば良いのか、迷われている先生もいらっしゃると思います。骨粗鬆症では、脊椎圧迫骨折のために痛みが出ることが多いので、体動時の腰背部痛を訴えたり、背中が丸くなったり身長が低くなったことを自覚されたりした方を対象と考えます。図5の脊柱変形評価法に該当する方や、体動時の腰痛がある60代以上の女性がよい対象と考えます。実際、骨粗鬆症外来開設前に、開業の内科の先生からご紹介いただいた70代以上の女性で、腰背部痛を訴えていた方は、ほとんどが骨粗鬆症の診断でした。

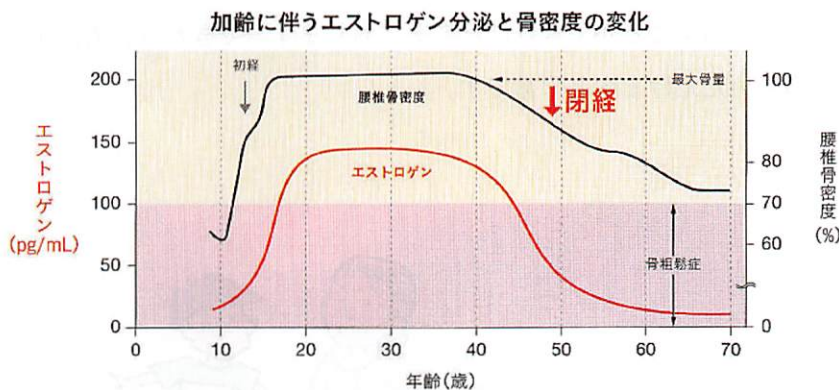


図3：エストロゲンの量と骨密度の関係。
（廣田憲二ほか Q&A骨粗鬆症、保険同人社 p.30 2001より一部改変）

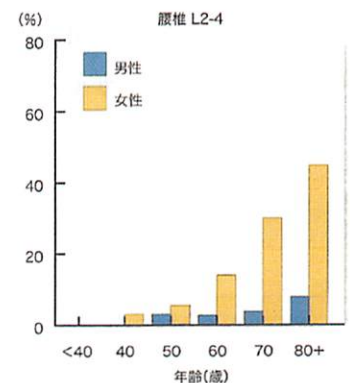


図4：骨粗鬆症の有病率。
（Kitazawa A et al. J Bone Miner Metab 2001より改変）

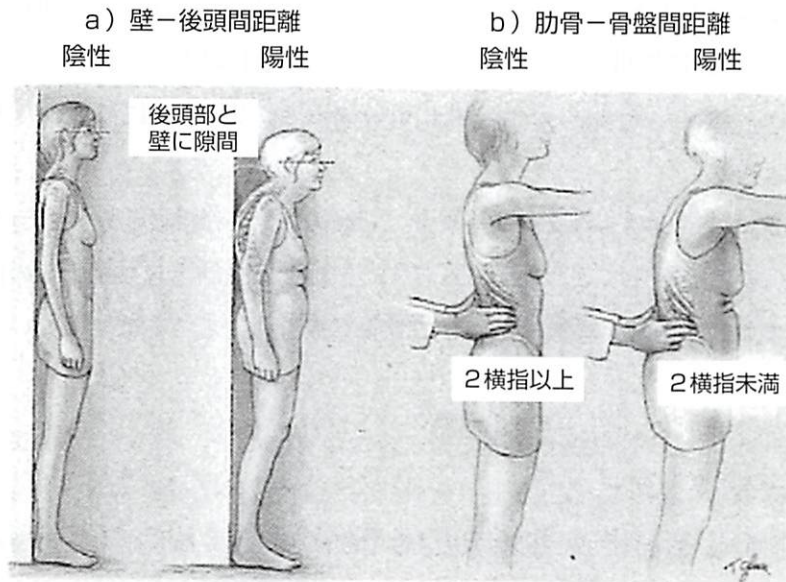


図5：脊柱変形評価法。

- a. 壁-後頭間距離。立位にして後頭部と壁に隙間がある場合、胸椎に骨折がある可能性が高い。
- b. 肋骨-骨盤間距離。肋骨と骨盤の距離が指2本より短いなら腰椎に骨折がある可能性が高い。

(2015年骨粗鬆症ガイドラインより抜粋)

骨の代謝には時間がかかりますので、治療の継続がとても重要となります。薬の内容にもよりますが、年単位で継続しないと効果を発揮しない薬も多く、骨折を契機に薬を飲み始めたのにやめてしまい、反対側の股関節を骨折した…という話も枚挙に暇がありません。整形外科医の中でも、骨折は治療したけど骨粗鬆症の治療がされていないという問題点が、学会などで近年とりあげられています。

そこで、骨粗鬆症外来は、骨粗鬆症の薬を提案し、薬の有害事象がないことを確認の上、紹介をいただいた先生に薬の継続をお願いし、数か月後または1年後に検査のため来院していただくというスタンスをとることとしました。実際、骨粗鬆症由来の骨折後の薬剤継続を、各開業医の先生にお願いしているところです。

骨粗鬆症の治療は1施設のみで行うには限界があります。ぜひとも、開業の先生方にも、科を超えてご協力いただき、少しでも骨粗鬆症由来の骨折を減らすことができると考えております。できれば、看護師や薬剤師など、コメディカルの方々のご協力もいただけますと幸甚です。

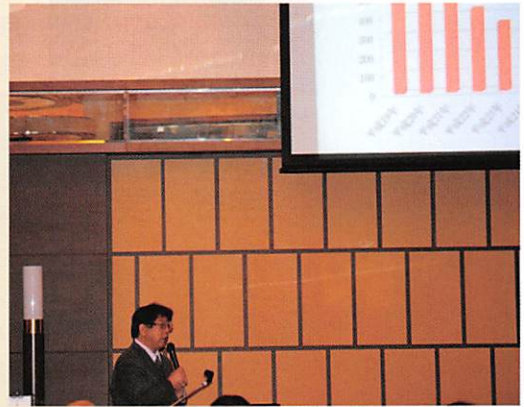


第13回 新春賀詞交歓会

地域連携のつどい

平成28年1月8日（金）、グランパルティいわきにて「第13回 総合磐城共立病院新春賀詞交歓会（地域医療連携の集い）」を開催いたしました。

多くの方に参加いただき、和やかな雰囲気の中、皆さんがそれぞれ交流を深めました。



新任医師紹介



うの かなめ
宇野 要 医師

消化器内科

皆様、はじめまして。2015年11月よりいわき市立総合磐城共立病院消化器内科・連携講座消化器地域医療医学講座（客員准教授）に着任させていただきました宇野要と申します。

平成10年東北大学医学部卒業後、主に東北大学消化器病態学分野において臨床・研究・医学教育に携わってきました。上部消化管疾患の内視鏡診療を中心に貢献できたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



地域医療連携室への予約について

予約の際は、「**地域医療連携診療予約申込書**」及び「**紹介状（診療情報提供書）**」を当室までFAXにてお送りください。



また、予約に関してご不明な点がございましたら、下記まで電話でお問い合わせください。

予約受付時間 **8:30～17:00** [土・日曜日は受付していません]

いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室

電話 0246 (26)2250(直通)

FAX 0246 (26)2119

